

平成二十九年度 冬季 鎌倉俳句&ハイク

季節 「冬」

期間 平成二十九年十一月一日～平成三十年一月末

投句数 二、三五六句

特選三句

天

唐門の龍の声かも虎落笛

神奈川県横浜市南区 岸本 隆雄

地

天と地と分けて暮れゆく初時雨

神奈川県横浜市青葉区 山下 省三

人

寄せて引く波も春めく由比ガ浜

神奈川県横須賀市 宮岡 弘

入選句

一般の部

父の背で石段登る七五三

大阪府豊中市

安藤 知明

極月の薄茶いたたく浄妙寺

東京都武蔵野市

池田 章子

木洩れ日の頼朝の墓小鳥来る

東京都武蔵野市

池田 宏治

山門を閉ざす尼僧の頬被

東京都渋谷区

小熊 紀子

海光や紅葉且つ散る段葛

神奈川県横浜市旭区

加瀬 伸子

江ノ電や冠雪の富士見ゆるまで

東京都目黒区

片桐 啓之

小鳥来る山の社の恋みくじ

神奈川県横浜市港南区

金子 きよ

由比ヶ浜やさしく囲み山笑ふ

神奈川県藤沢市

神谷 章夫

春を待つつ明月窯の燼余かな

兵庫県神戸市北区

木村 かづ子

落葉踏む足音楽し切通し

千葉県船橋市

斉藤 光男

実朝のゆかりの浜に若布干す

神奈川県横浜市金沢区

篠原 広子

もうすこし奥まで行かう冬日和

神奈川県横浜市戸塚区

高橋 央尚

やはらかき冬日あまねし大鳥居

神奈川県横浜市港南区

田阪 武夫

八百年の作法守りて弓始

東京都杉並区

野村 親信

葱見ゆる修道院の裏畑

神奈川県横浜市金沢区

林 直美

冬紅葉大仏の頬染めるかな

神奈川県横浜市戸塚区

福島 佑里絵

秋深し古都の山門仰ぐ時

埼玉県狭山市

古谷 多賀子

走り根はいちやう落葉に埋もれをり

東京都町田市

星野 佐紀

家すれすれ江ノ電通る石路の花

神奈川県鎌倉市

山岸 利江

櫂の先輝き渡る冬の波

埼玉県川越市

山本 秀子

(順不同)

入選句

子どもの部

秋風が私達を呼んでいる

埼玉県熊谷市

新井 桃香

ふゆもみじゆらりとおちるいけのなか

東京都新宿区

内谷 アンディ

赤かりし鳥居の裏に山眠る

東京都江東区

塩山 華鈴

嬉しいな紅葉の風に包まれて

東京都新宿区

渋谷 斐

長谷寺に散りゆく紅葉歴史あり

東京都新宿区

下村 みず紀

羽子板の音色はどこへ飛んでいく

東京都江戸川区

寿福 太郎

冬紅葉山を彩る名残あり

東京都江東区

長野 茜

大仏の側で色づく紅葉かな

東京都江東区

堀内 爽絢

大仏を見上げる空に赤とんぼ

埼玉県熊谷市

水谷 茉菜

冬紅葉歴史感じる高徳院

東京都江東区

八木澤 一颯

(順不同)